

山形県・令和4年度9月補正予算の主な事業③

観光文化スポーツ部 ● 県外空港を利用して本県を訪れる旅行商品造成に対する支援（県内を周遊・宿泊する旅行商品の造成を支援）……8,000万円
健康福祉部 ● 保険適用のPCR検査費用〔自己負担分〕に対する公費負担（検査費の公費負担の所要額を確保）……3億7,900万円
健康福祉部 ● 宿泊・自宅療養中の医療費〔自己負担分〕に対する公費負担（医療費の公費負担の所要額を確保）……3億4,600万円
県土整備部 ● 酒田港におけるカーボンニュートラルポートの形成に向けた検討のための基礎調査……2,100万円

石黒さとる
活動日誌

総務常任委員会
県内現地調査（庄内町）
県内食肉衛生検査所を訪問。同敷地にある庄内食肉処理センターは30年ほど前に私が基本設計を担当した建物で、懐かしかったです。



令和4年7月15日（金）

令和4年7月19日（火）
南平田小学校博物館の照明器具
改修工事に立ち会い（酒田市）

博物館の中が暗いという児童からの指摘を受け、改修工事を実施。LED増設工を行ない、明るさがアップしました。

令和4年7月31日（日）
「酒田駅前再開発事業竣工
修抜式」に出席（酒田市）

酒田駅前再開発事業竣工修抜式ならびにグランドオープンセレモニーが行われました。酒田吹奏楽団の祝賀演奏が華やかでした。

令和4年8月4日（木）
酒田市の水道事業の現状と
課題を現地調査（酒田市）

庄内圏域における水道事業経営強化のための広域化のメリットと広域化に向けたステップなどについて意見交換をしました。

預かりした「税金」を適正に予算化し執行することは極めて重要です。

この度の監査結果において、指摘や注意事項が令和2年度より増加していることに対し、監査委員はどのように捉え、必要な対応策としてどのように重点を置いて取り組むべきか、代表監査委員に伺います。

代表監査委員／答弁

令和3年度定期監査は、231の機関を対象に実施し、是正・改善を要するとして指摘・注意事項の対象となった事案は76の機関で117件、前年から27件の増加となりました。具体的には、支出事務における支払の遅れ、収入事務における調定の遅れなどのほか、補助金などの交付事務において、交付決定や額の確定の遅れ、変更承認の手続不備などです。

また、前年度と同様の不適正な事務処理が繰り返されている所属もいくつか確認されました。こうした不適正な事務処理が発生した背景には、新型コロナへの対応や凍霜害豪雪への対応など、全体的に事務量が増加したなかで、関係規程などに対する理解が十分でなかったことや、組織的な確認や進捗管理が徹底されていないことなどが挙げられます。不適正な事務処理が発生すれば、その内容により、是正改善のための措置や原因

の分析、再発防止策の検討と実施に多くの時間と労力が割かれることになり、その影響は事業者など多方面に及ぶこともあります。

こうした事務処理のリスクの発現を未然に防止し、事務の適正執行を確保するための内部統制が、知事部局にて本格的に導入されて2年余りが経過しました。この間、他の任命権者において同様の取り組みがはじまり、職員の意識の向上につながっていると思いますが、この度の監査結果を踏まえると、全ての職員が内部統制の趣旨を理解し、主体的に取り組むことが重要であると認識しました。

このため、県政に対する県民からの信頼は、職員一人ひとりの適正な事務の執行に成り立っていることを自覚し、所属長の適切なマネジメントのもと、職員同士のコミュニケーションを活性化させ、風通しの良い職場を醸成し、事務事業の進捗状況の共有や、協力体制の一層の強化などに取り組んでいきたい。監査委員は、こうした内部統制の実効性を高めるための取り組み状況に、定期監査のなかで重点的に確認を行うとともに、発生事案について、同様の誤りを防止する観点から、その要因と再発防止策も含めて、全庁的に情報を発信し、注意を喚起していきます。

12.1%となり、企業債発行に総務大臣の許可が必要となり「資金不足等解消計画」を策定。経営健全化に動き出した矢先に、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られる事態となりました。

県立病院における新型コロナウイルス感染症への対応は、3病院で県内最多（68床）の専用病床を確保して、多くの感染患者を受け入れました。河北病院でPCR自主検査センターを運営し、4,326件の検査を実施するなど、感染の収束に向け、県立病院が総合力を発揮してきました。

こうした新型コロナの影響があり、患者数は入院外来ともに令和2年から増加し、医業収益は約17億6,000万円の増加。経常収支は、コロナに係る補助金の受入れなどもあり約16億3,000万円の黒字と改善。「中期経営計画」や「資金不足等解消計画」を策定し、経営改善に鋭意取り組んでいます。県立病院の持続的・安定的な運営基盤の確保には、本格的なウイズコロナ・ポストコロナの到来を見据えた、更なる経営改善の取り組みが急務と考えられます。

病院事業会計の令和3年度決算の結果をどのように評価し、課題をどのように認識しているのか、病院事業管理者に伺います。

病院事業管理者／答弁

令和3年度の病院事業は、多くの新型コロナ感染患者を受け入れて治療に最善を尽くしながら、河北病院でPCR自主検査センターを運営するなど、コロナ対策の中核となって取り組みや、皆様に必要な医療を提供し、県立病院としての

役割を積極的に果たしてきました。

病院事業会計の令和3年度決算を前年度と比較すると、入院では、中央病院や新庄病院において、新型コロナ専用病床を確保しながらも、延期していた予定手術を徐々に再開したことなどにより、患者延数は1,925人の増加。外来では、前年度は一般の患者の受診控えなどにより患者延数が落ち込みましたが、延期していた治療や検査を徐々に再開したことなどにより、1万7,653人の増加となり、医業収益は、17億6,000万円の増収。医業費用は、患者延数の増加に伴う薬品や診療材料の購入に要する材料費や退職給付費などの給与費の増加、重油の高騰による燃料費の増加などにより、9億7,000万円増となりました。結果、差引きとなる医業収支は、7億9,000万円増と大きく改善しました。

また、医業外収益は、新型コロナ専用病床の病床確保料や各病院の院内感染拡大防止対策などに係る新型コロナ補助金の受入れが6億1,700万円増加などにより、経常収支は6億7,300万円改善して、16億3,300万円の黒字となりました。

令和4年10月28日（金）、
決算特別委員会にて総括質疑を担当しました。

コロナ禍における病院事業の状況と
令和3年度病院事業決算の評価と課題について

令和4年10月28日（金）／決算総括質疑

石黒党・議員／質問

令和元年度の決算特別委員会において、平成30年度病院事業決算状況は、6年連続の赤字であ

り、厳しい経営状況にあると答弁がありました。また、平成28年度に初めて資金不足が生じたことから、平成29年度には資金不足比率が